

## 奄美大島屋鈍遺跡第2次発掘調査速報

### A Prompt Report of the Second Excavation at Yadon Site, Amami-oshima, Kagoshima

竹中 正巳<sup>1)</sup>, 鐘ヶ江賢二<sup>2)</sup>, 大西智和<sup>3)</sup>, 渡 聡子<sup>4)</sup>, 鼎丈太郎<sup>5)</sup>, 鼎さつき<sup>5)</sup>

Masami Takenaka, Kenji Kanegae, Tomokazu Onishi, Satoko Watari, Jotaro Kanae, Satsuki Kanae

<sup>1)</sup>鹿児島女子短期大学, <sup>2)</sup>鹿児島国際大学ミュージアム, <sup>3)</sup>鹿児島国際大学国際文化学部,

<sup>4)</sup>宇検村教育委員会, <sup>5)</sup>瀬戸内町教育委員会

本稿は、2018年9月9日から9月19日まで行われた鹿児島県宇検村屋鈍遺跡第2次発掘調査の結果速報である。新たに1基の中世墓が検出された。単体埋葬で、伏臥屈位の姿勢で埋葬され、副葬品は遺存していなかった。この新たに出土した5号墓からは熟年男性人骨が出土した。

**Keywords** : Yadon site, Amami-oshima, medieval period, human skeletal remains

**キーワード** : 屋鈍遺跡, 奄美大島, 中世, 古人骨

#### 1. はじめに

鹿児島県大島郡宇検村屋鈍に所在する屋鈍（やどん）遺跡は奄美大島焼内湾の入口南側の砂丘上に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての土器や石器と共に貝や獣魚骨などの食糧残滓が多量に出土する貝塚的な遺跡として知られてきた（鹿児島県立埋蔵文化財センター, 2009）。土師器, 須恵器, 輸入陶器, 鉄器, 墨書貝製品, 貝符, 貝符未製品や磨製石鏃等の出土遺物は、九州・沖縄をはじめ東南アジアとの関連を示している。

2016年9月, 竹中正巳らは新たに同遺跡の発掘調査を行い, 中世に属すと考えられる土坑墓4基（1～4号墓）を発見した。中世奄美群島の埋葬実態を解明する上で貴重な資料となった（竹中ら, 2018）。

今回, 竹中らは2018年9月に屋鈍遺跡の第2次発掘調査を行った。本稿では, この第2次発掘調査の成果について速報する。

#### 2. 調査成果

第2次調査は, 2018年9月9日から9月19日までの11日間行われた。第1次調査で発見された中世墓の墓域の広がりを確認するために, 新たに4つのトレンチを設定し発掘した。2トレンチ拡張部に, 新たに中世墓1基（5号墓）を検出できた（図1）が, 他の3つのトレンチから墓を発見することはできなかった。墓域に関しては, 広く広がることは考えにくい。5号墓の掘りこまれた土層からは, 中国青磁片が検出されていることから, 中世の土坑墓と考えられる。

#### 5号墓（図2）

出土した人骨は単体で, 埋葬姿勢は東頭位の伏臥屈葬である。顔面は北を向く。左右の膝関節は強く曲げられている。人骨の保存状態はよい。性別は男性, 年齢は熟年と判定される。副葬品は遺存していない。



図1 屋鈍遺跡5号墓(2トレンチ拡張部から検出)  
(上: 向かって左が2トレンチ, 右が拡張部 下: 2トレンチから拡張部を見る)



図2 屋鈍遺跡5号墓の人骨出土状況

### 3. おわりに

今回の屋鈍遺跡の中世墓（5号墓）から出土した人骨も、第1次調査で出土した4体に引き続き、山がちな奄美大島南部地域の中世人の形質を考える上で貴重な出土例である。出土人骨からのC14年代測定などを行い、所属年代を確定させたい。奄美群島では、奄美大島をはじめ喜界島、徳之島から保存良好な中世人骨の出土が続いている。中世の奄美群島の人々の形質、系統、生活、風習、栄養状態、埋葬過程や埋葬儀礼などの解明が期待される。

### 謝辞

発掘調査の際、宇検村の屋鈍集落のみなさまには助言や助力を多数たまわった。また、宇検村教育委員会には、調査の便宜を図っていただいた。深甚の謝意を表す。

本発掘調査はJSPS 科研費 JP16K03172の助成により行われた。

### 引用文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター（2009）屋鈍遺跡。鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書，第143巻。

竹中正巳，鐘ヶ江賢二，大西智和，渡 聡子（2018）奄美大島屋鈍遺跡発掘調査概報。鹿児島女子短期大学紀要54: 5-13。

(2018年12月11日 受理)